

令和4年度  
『地域福祉コーディネーターによる共助支援事業』  
事業報告書

# 目次

<b>1 事業概要</b> .....	<b>1</b>
<b>2 相談実績</b> .....	<b>2</b>
(1) 対応実績内訳 .....	2
(2) 相談者内訳 .....	3
(3) 対応方法内訳 .....	5
(4) 支援対象者内訳 .....	6
(5) 相談内容内訳 .....	7
(6) 対応内訳 .....	9
<b>3 対応事例</b> .....	<b>10</b>
<b>4 会議体等への参加</b> .....	<b>12</b>
<b>5 大沢地区 地域福祉コーディネーターによる相談サロン</b> .....	<b>13</b>
<b>6 研修体制</b> .....	<b>13</b>
<b>7 広報</b> .....	<b>14</b>
<b>8 まとめ</b> .....	<b>15</b>

## 1 事業概要

令和2年4月に三鷹市社会福祉協議会が三鷹市から事業を受託し、大沢地区（大沢1～6丁目）に1名の地域福祉コーディネーターを配置して事業を開始しました。令和3年4月には連雀地区（上連雀6～9丁目、下連雀5～9丁目）に1名の地域福祉コーディネーターを配置し2名体制となり、令和4年度も引き続き2名体制で事業を実施しました。

「三鷹市地域福祉コーディネーターによる共助支援事業」では、現行の制度や公的なサービスでは対応できない制度の狭間にある課題や、高齢・障がい・生活困窮・子育てなど多分野にまたがる複合的な課題についてワンストップで受け止め、課題を抱える世帯に継続的に寄り添いながら伴走支援を行い、様々な関係機関・団体と連携して課題の解決に取り組みました。

また、個人が抱える課題から地域の課題を見つけ、その課題について地域住民に我が事として一緒に考えてもらい、課題解決に向けた取り組みに参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながり住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく「地域共生社会」の実現に取り組みました。

なお、地域福祉コーディネーターは三鷹市上連雀分庁舎内にあるみたかボランティアセンターの事務所に席を置き相談等に対応しています。

みたかボランティアセンター

住所：三鷹市上連雀 8-3-10 三鷹市上連雀分庁舎 1階

TEL：0422-76-1271 FAX：0422-76-1273

### 相談支援

属性や世代を問わず相談に対応し、多機関の協働をコーディネートしながら課題の解決を図ります。



### 参加支援

既存の制度やサービスを活用しながら、対応できない狭間のニーズにも対応します。



### 地域づくり に向けた支援

世代や属性を越えて交流できる居場所づくりや多分野のプラットフォームとなり、交流・参加・学びの機会をコーディネートします。



## 2 相談実績

### (1) 対応実績内訳

	大沢		連雀		合計	
	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度
新規相談	94	<b>101</b>	75	<b>85</b>	169	<b>186</b>
ケース対応	956	<b>774</b>	868	<b>1,229</b>	1,824	<b>2,003</b>
啓発	54	<b>109</b>	18	<b>7</b>	72	<b>116</b>
研修	45	<b>31</b>	16	<b>17</b>	61	<b>48</b>
会議体参加		<b>102</b>		<b>55</b>		<b>157</b>
打合せ		<b>38</b>		<b>214</b>		<b>252</b>
その他	129	<b>345</b>	36	<b>41</b>	165	<b>386</b>
合計	1,278	<b>1,500</b>	1,013	<b>1,648</b>	2,291	<b>3,148</b>

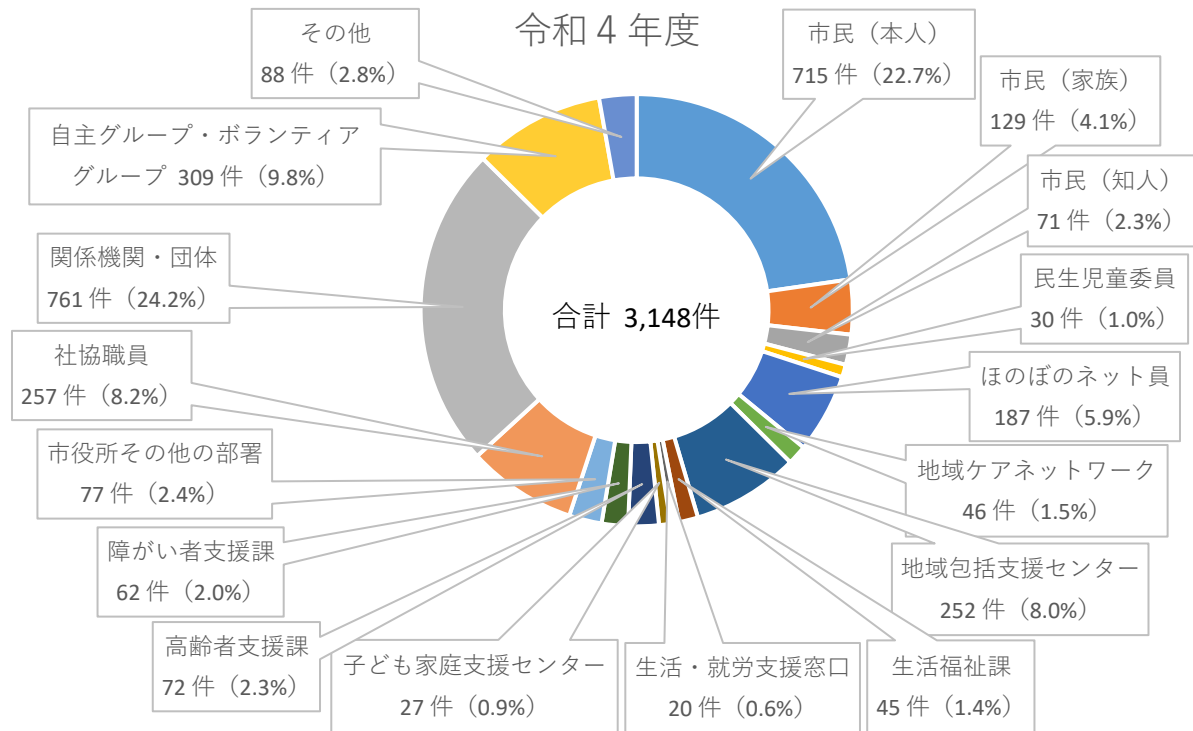
※「会議体参加」「打合せ」は令和4年度から項目を新設。

市民等から新規で個別の相談を受けた「新規相談」については、大沢地区は前年度の94件から101件に増加、連雀地区は前年度の75件から85件に増加しており、大沢地区・連雀地区で合計186件と前年度の169件から17件増加した。月に平均すると大沢地区は8.4件、連雀地区は7.1件の新規相談があり、どちらの地区も地域福祉コーディネーターの認知度が上がってきた結果、新規相談の件数が増加している。大沢地区では令和3年度に引き続き、身近な相談の場として地区内にある地区公会堂や都営・市営住宅の集会所5ヶ所で「地域福祉コーディネーター相談サロン」を毎月1回開催した。コミュニティ紙に開催のお知らせを毎月掲載したこともあり、新規で14件の相談があった。

課題解決に向けた支援等を行う「ケース対応」については、大沢地区は774回と前年度の956回から減少したものの、連雀地区は1,229回と前年度の868回から大幅に増加し、大沢地区・連雀地区で合計2,003回と前年度の1,824回から増加する結果となり、ケース対応の回数を月に平均すると大沢地区では64.5回、連雀地区では102.4回となった。連雀地区では前年度からの継続のケースや今年度の新規のケースを含め、精神障がいやメンタルに不調のある方など複合的な課題を抱えた方や継続して関わりが必要な方の対応が多く、生活に対する不安などから定期的な声掛けや訪問、傾聴が必要なケースが増えおり、1件の相談に対するケース対応の回数が多くなっている。大沢地区では複合的な課題を抱えたケースや継続して関わりが必要なケースはあるものの連雀地区に比べると件数は少なく、1件の相談に対するケース対応の回数は少なくなっている。大沢地区・連雀地区ともに令和3年度以前から継続して関わっているケースが複数あり、今後も引き続き寄り添いながら伴走支援を行っていく必要がある。

「その他」は地域資源を把握するために自主グループなどの活動に参加したり、会議体や研修の参加の調整、大沢地区で実施した相談サロンの開催やその調整等が含まれている。

## (2) 相談者内訳



	大沢		連雀		合計	
	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度
市民(本人)	452	<b>198</b>	307	<b>517</b>	759	<b>715</b>
市民(家族)	48	<b>22</b>	23	<b>107</b>	71	<b>129</b>
市民(知人)	11	<b>14</b>	22	<b>57</b>	33	<b>71</b>
民生児童委員	49	<b>18</b>	27	<b>12</b>	76	<b>30</b>
ほのぼのネット員	55	<b>143</b>	43	<b>44</b>	98	<b>187</b>
地域ケアネットワーク	8	<b>35</b>	2	<b>11</b>	10	<b>46</b>
地域包括支援センター	106	<b>170</b>	37	<b>82</b>	143	<b>252</b>
生活福祉課	45	<b>40</b>	11	<b>5</b>	56	<b>45</b>
生活・就労支援窓口	16	<b>2</b>	6	<b>18</b>	22	<b>20</b>
子ども家庭支援センター	55	<b>15</b>	41	<b>12</b>	96	<b>27</b>
高齢者支援課	21	<b>58</b>	3	<b>14</b>	24	<b>72</b>
障がい者支援課	2	<b>8</b>	18	<b>54</b>	20	<b>62</b>
市役所その他の部署	22	<b>52</b>	18	<b>25</b>	40	<b>77</b>
社協職員	146	<b>193</b>	45	<b>64</b>	191	<b>257</b>
関係機関・団体		<b>381</b>		<b>380</b>		<b>761</b>
自主グループ・ボランティアグループ		<b>126</b>		<b>183</b>		<b>309</b>
その他	242	<b>25</b>	410	<b>63</b>	652	<b>88</b>
合計	1,278	<b>1,500</b>	1,013	<b>1,648</b>	2,291	<b>3,148</b>

※「関係機関・団体」「自主グループ・ボランティアグループ」は令和4年度から項目を新設。

地域福祉コーディネーターが対応した相談者として一番多かったのが「関係機関・団体」の761件で全体の24.2%であった。前年度は「関係機関・団体」の項目を設定しておらず、「その他」の中に含んでいたため単純に比較はできないが、前年度の「その他」652件より増加しており、相談を受けた際に市役所の窓口以外の関係機関と連携して対応する機会が増えてきている。具体的には警察や多摩府中保健所、学校、病院、住民協議会、町会・自治会、多世代交流センター、三鷹市シルバー人材センター、三鷹市市民協働センター、フードバンクみたか、市内の高齢者・障がい者施設、事業所（ケアマネジャー、相談支援専門員）、企業、水道局、後見人の弁護士など様々な機関・団体が含まれている。支援にあたっては行政の公的サービスだけではなく 地域にあるインフォーマルな社会資源を活用するため、今後も様々な機関・団体との関わりを増やしていく。

二番目は「市民（本人）」の715件で全体の22.7%であった。家族や知人、近隣住民から相談を受けたり状況を確認したりすることもあるが、課題を抱えている市民本人と直接やりとりする機会が多くなっている。特に連雀地区では精神障がいやメンタルに不調のある方の支援が多く、不安から1日に複数回電話が掛かってくることもあり、連雀地区の中では517件と一番多かった。

三番目は「自主グループ・ボランティアグループ」の309件で全体の9.8%であった。「関係機関・団体」と同じく、相談を受けた際に地域で活動している自主グループやボランティアグループと連携して対応する機会が増えている。具体的には子ども食堂や学習支援のグループ、ひきこもり家族会「みたか親の会」、老人クラブ、ちょっとお助け隊、介護予防の自主グループなどが含まれている。

四番目は「社協職員」の257件で全体の8.2%であった。社会福祉協議会が事業を実施している生活支援コーディネーターや権利擁護事業、生活福祉資金の貸付、学童保育所など、それぞれの事業で関わりのある方について地域福祉コーディネーターに相談があり対応するケースも増えてきており、特に大沢地区では学童保育所からの相談で対応する機会が多かった。

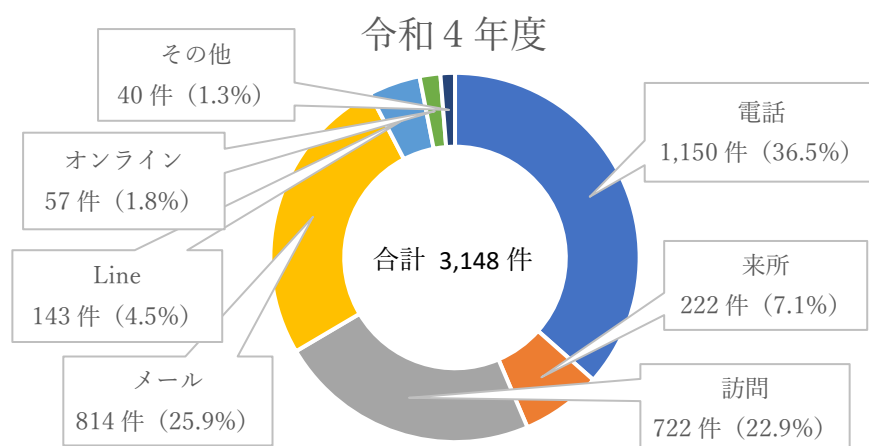
五番目は「地域包括支援センター」の252件で全体の8.0%であった。前年度に引き続き介護保険の申請や利用など高齢者に関する相談が多く、地域包括支援センターと連携する機会が多かった。

六番目は「ほのぼのネット員」の187件で全体の5.9%であった。課題を抱えている市民の見守りや声かけ、ちょっとしたお手伝いをしてもらうこともあり、地域福祉コーディネーターの重要な協力者となっている。

市役所の部署の中では「障がい者支援課」が62件と増えており、精神障がいやひきこもり等の相談の対応で関わるケースが増えている。



### (3) 対応方法内訳



	大沢		連雀		合計	
	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度
電話	472	<b>387</b>	491	<b>763</b>	963	<b>1,150</b>
来所	103	<b>122</b>	100	<b>100</b>	203	<b>222</b>
訪問	316	<b>454</b>	145	<b>268</b>	461	<b>722</b>
メール	297	<b>470</b>	207	<b>344</b>	504	<b>814</b>
Line		<b>13</b>		<b>130</b>		<b>143</b>
オンライン		<b>31</b>		<b>26</b>		<b>57</b>
その他	90	<b>23</b>	70	<b>17</b>	160	<b>40</b>
合計	1,278	<b>1,500</b>	1,013	<b>1,648</b>	2,291	<b>3,148</b>

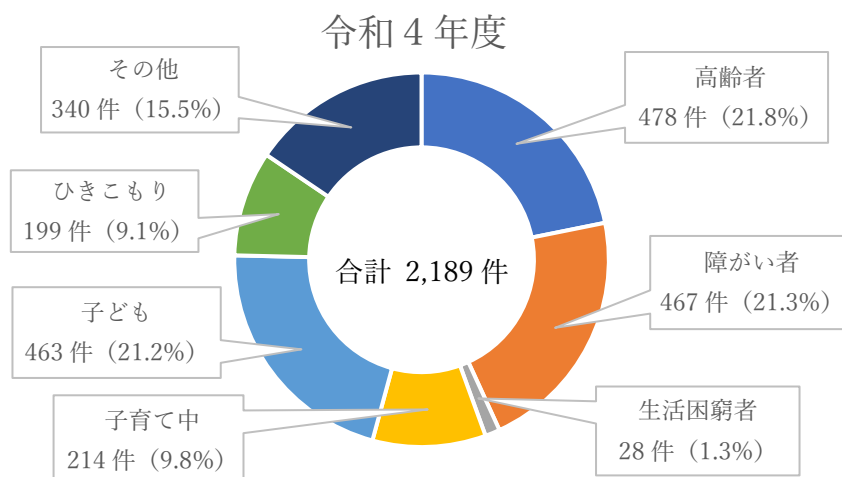
※「Line」「オンライン」は令和4年度から項目を新設。また、令和3年度に項目立てしていた「FAX」は削除し、実績は「その他」でカウント。

対応方法内訳としては「電話」が1,150件と最も多く、全体の36.5%（前年度42.0%）であった。次いで「メール」が814件で全体の25.9%（前年度22.0%）、「訪問」が722件で全体の22.9%（前年度20.1%）となっており、「電話」「メール」「訪問」が全体の80%以上を占めており、前年度の傾向と概ね同じであったが、「メール」と「訪問」の割合がそれぞれ微増となっている。特に大沢地区は「訪問」が前年度から約140件増加しており、市役所から遠いため気軽に相談に行くことが難しいため、地域福祉コーディネーターの役割の1つでもあるアウトリーチの重要性を改めて伺うことができる。今後も相談者の状況を見ながら必要に応じてアウトリーチを行っていく。

「Line」は143件で全体の4.5%であるが、連雀地区で130件の利用があり地域福祉コーディネーターが活動支援をしている学習支援の取り組みの中で保護者や関係者との連絡の際に使用している。

「オンライン」はその殆どがZoomの利用で、合計57件と全体の1.8%で件数としてはあまり多くないが、研修の参加や関係機関との打合せで利用した。

#### (4) 支援対象者内訳



	大沢		連雀		合計	
	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度
高齢者	302	<b>268</b>	183	<b>210</b>	485	<b>478</b>
障がい者	69	<b>65</b>	181	<b>402</b>	250	<b>467</b>
生活困窮者	54	<b>27</b>	2	<b>1</b>	56	<b>28</b>
子育て中	247	<b>68</b>	15	<b>146</b>	262	<b>214</b>
子ども	49	<b>122</b>	274	<b>341</b>	323	<b>463</b>
ひきこもり		<b>18</b>		<b>181</b>		<b>199</b>
その他	329	<b>307</b>	288	<b>33</b>	617	<b>340</b>
合計	1,050	<b>875</b>	943	<b>1,314</b>	1,993	<b>2,189</b>

※「ひきこもり」は令和4年度から項目を新設。

新規相談やケース対応を行った支援対象者内訳としては「高齢者」「障がい者」「子ども」が殆ど同じ件数で、それぞれ全体の約21%であった。前年度と比較すると「高齢者」は横ばいだが、「障がい者」は倍近く、「子ども」は1.5倍程増加している。

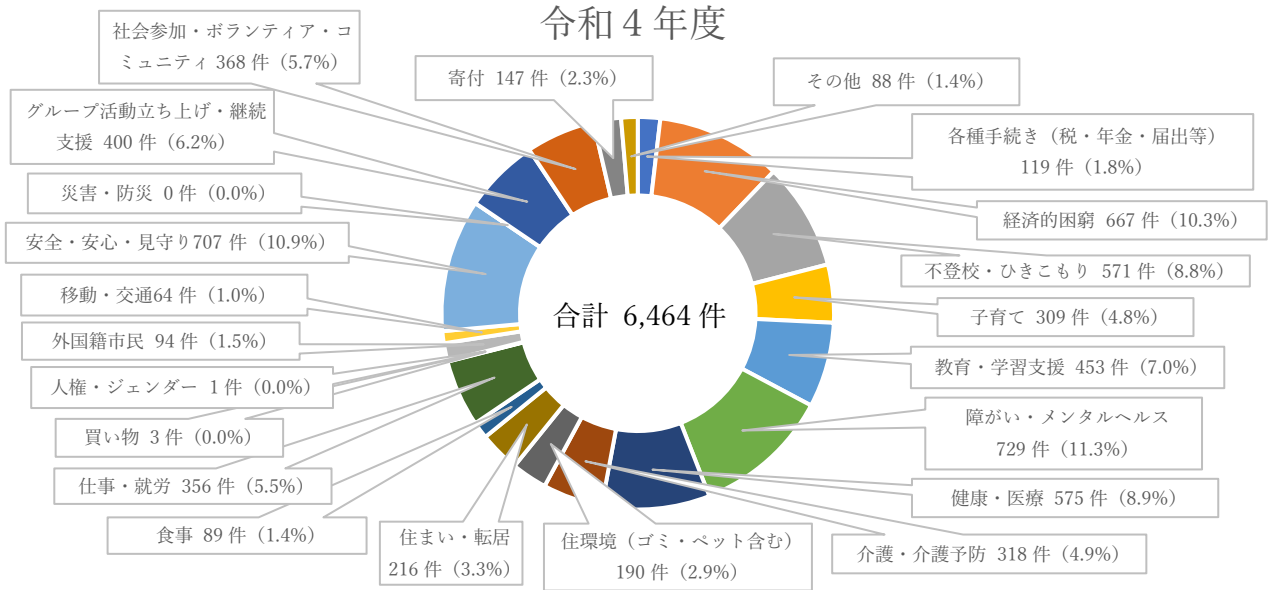
「障がい者」は連雀地区でうつ病や精神障がい疑われる方などから相談が多く、前年度の181件から402件と大幅に増加している。

「子ども」は大沢地区では前年度の49件から122件へと増加、連雀地区では274件から341件へと増加しており、大沢地区では学童保育所と連携して子どもの支援を行ったり、地区内の保育園に新しくできた子どもの居場所の活動支援を行ったため増加している。また、連雀地区では令和3年度に引き続き子ども食堂や学習支援の場の継続支援を行ったため増加している。特に子ども食堂の支援では、朝の時間帯に小学校の教室を借りて朝食の提供をするため、地域福祉コーディネーターが小学校や教育委員会と調整を行い、定期的な開催につながった。

「その他」は「高齢者」「障がい者」「子育て中」などに該当しない20代から50代の方で、具体的には疾病や社会参加などの相談があった。



(5) 相談内容内訳



	大沢		連雀		合計	
	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度
各種手続き(税・年金・届出等)	42	42	156	77	198	119
経済的困窮 ※1	75	102	118	565	193	667
不登校・ひきこもり ※2		37		534		571
子育て ※2	305	142	462	167	767	309
教育・学習支援 ※2		118		335		453
障がい・メンタルヘルス ※3		149		580		729
健康・医療 ※3	446	287	355	288	801	575
介護・介護予防 ※3		189		129		318
住環境(ゴミ・ペット含む) ※4	53	60	1	130	54	190
住まい・転居 ※5	50	24	201	192	251	216
食事	80	29	26	60	106	89
仕事・就労	32	36	42	320	74	356
買い物	11	0	1	3	12	3
人権・ジェンダー	5	1	6	0	11	1
外国籍市民 ※6		14		80		94
移動・交通	31	37	16	27	47	64
安全・安心・見守り	362	143	273	564	635	707
災害・防災	14	0	1	0	15	0
グループ活動立ち上げ・継続支援	184	193	283	207	467	400
社会参加・ボランティア・コミュニティ	280	260	321	108	601	368
寄付 ※6		107		40		147
その他 ※7	29	85	56	3	85	88
合計	1,999	2,055	2,318	4,409	4,317	6,464

- ※1 「経済的困窮」は令和3年度の「生活費・収入」から名称を変更。
- ※2 「不登校・ひきこもり」「子育て」「教育・学習支援」は令和3年度の「子育て・教育」から3項目に分類し、実績は「子育て」でカウント。
- ※3 「障がい・メンタルヘルス」「健康・医療」「介護・介護予防」は令和3年度の「健康・医療・介護」から3項目に分類し、実績は「健康・医療」でカウント。
- ※4 「住環境（ゴミ・ペット含む）」は令和3年度の「環境・ゴミ・ペット」から名称を変更。
- ※5 「住まい・転居」は令和3年度の「住まい・道路」から名称を変更。
- ※6 「外国籍市民」「寄付」は令和4年度から項目を新設。
- ※7 令和3年度に項目立てしていた「生涯学習・スポーツ」は項目を廃止し、実績は「その他」でカウント。

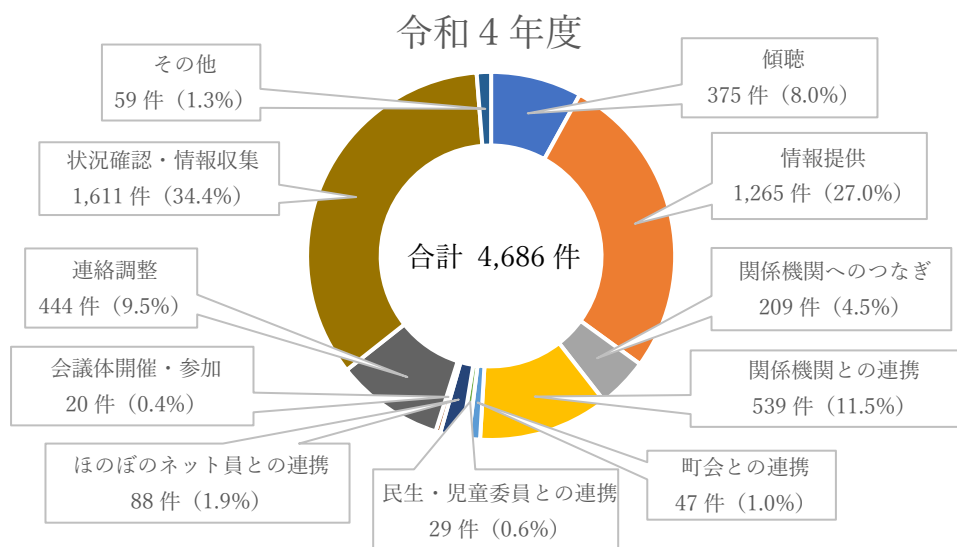
相談内容内訳としては「障がい・メンタルヘルス」が729件で全体の11.3%と最も多かった。「障がい・メンタルヘルス」は今年度に新しく項目を新設したため前年度との比較はできないが、連雀地区では580件で最も多かった。精神障がいやメンタルに不調を抱える方の中には公的な制度やサービスにつながらず、主たる支援者がいないケースも多く、その場合は地域福祉コーディネーターが主たる支援者となりその方の話しを聴いたり相談に乗る機会が増えている。要支援者の中には受診を中断している方もいるため、医療機関の受診に同行することもあった。また、生活実態は市内にあるものの、住民登録が市外のため公的なサービスを思うように利用できないケースもあった。

二番目は「安全・安心・見守り」の707件で全体の10.9%であった。様々な相談を受ける中で高齢者や障がい者、子ども、ひきこもりなど対象者に関わらず、安全・安心の確保や見守りについて不安を訴えられるケースが多くなっている。特に連雀地区では「障がい・メンタルヘルス」に関わる相談の中で不安を訴えられるケースが多く見られた。

三番目は「経済的困窮」の667件で全体の10.3%であり、連雀地区では565件と前年度の118件から大幅に増加している。「経済的困窮」を対象者別でみると生活困窮者はもちろん、障がい者、子育て中、ひきこもりに多く見られ、複合的な課題として相談に対応している。「経済的困窮」に関連して連雀地区では「仕事・就労」が320件と前年度の42件から大幅に増加しており、三鷹市生活・就労支援窓口やむさしの地域若者サポートステーション、就労継続支援・就労移行支援の事業所等と連携して相談に対応した。

件数は多くないが「外国籍市民」や「寄付」に関する相談も一定数あった。「外国籍市民」の内容としては、大沢地区・連雀地区ともに外国籍の保護者の子どもの学習の遅れや進学に関する相談があった。三鷹市における外国籍市民の住民登録は増えており、今後も外国籍市民に関する相談は増加していくことが考えられる。また、「寄付」の内容としては、フードバンクみたかへの食料品の提供や子ども食堂や学習支援の活動に対する食材や文房具、絵本などの提供の相談が多くあった。個人やグループ、高校、大学など様々な方から寄付の申し出があり、地区で活動している団体の状況を把握している地域福祉コーディネーターが橋渡しを行った。

## (6) 対応内訳



	大沢		連雀		合計	
	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度
傾聴	43	<b>42</b>	205	<b>333</b>	248	<b>375</b>
情報提供	349	<b>395</b>	436	<b>870</b>	785	<b>1,265</b>
関係機関へのつなぎ	40	<b>95</b>	113	<b>114</b>	153	<b>209</b>
関係機関との連携	259	<b>337</b>	252	<b>202</b>	511	<b>539</b>
町会との連携	23	<b>30</b>	13	<b>17</b>	36	<b>47</b>
民生・児童委員との連携	36	<b>16</b>	9	<b>13</b>	45	<b>29</b>
ほのぼのネット員との連携	40	<b>47</b>	34	<b>41</b>	74	<b>88</b>
会議体開催・参加	58	<b>8</b>	36	<b>12</b>	94	<b>20</b>
連絡調整	205	<b>120</b>	258	<b>324</b>	463	<b>444</b>
状況確認・情報収集	584	<b>612</b>	487	<b>999</b>	1,071	<b>1,611</b>
その他	14	<b>47</b>	10	<b>12</b>	24	<b>59</b>
合計	1,651	<b>1,749</b>	1,853	<b>2,937</b>	3,504	<b>4,686</b>

対応内訳としては「状況確認・情報収集」が1,611件で全体の34.4%と最も多く、次いで「情報提供」が1,265件で全体の27.0%と2つで全体の6割超を占めており、支援を行うために支援対象者の状況を確認したり、利用できるサービスや制度等の情報提供を行う機会が多くあり、地域福祉コーディネーターには本人の状況等をアセスメントする力と高齢、障がい、生活困窮など様々な分野のサービスや制度、地域の社会資源等の情報の把握が求められている。

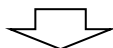
また、地域福祉コーディネーターが単独で課題の解決することは難しく、「関係機関との連携」や「関係機関へのつなぎ」など、町会、民生・児童委員、ほのぼのネット員との連携も含め、関係機関や団体、地域住民との関わりがないと必要な支援につなげることは難しく、信頼関係の構築がとても重要になっている。

### 3 対応事例

#### ケース1 「高齢夫婦の自宅のゴミの片づけの支援」

(支援経過)

公営住宅を管理している会社から高齢夫婦の部屋のゴミの片付けについて相談を受ける。高齢者支援課と地域包括支援センターが以前から関わっているゴミ屋敷のケースで、地域福祉コーディネーターも一緒に支援していくことになる。



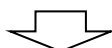
自治会の協力を得て支援者で夫婦と一緒に自宅の片づけを実施。ごみ対策課の協力で約 1,600kg のゴミを廃棄。全てのゴミが片付けられていないため、引き続き支援者で夫婦の見守りを行いながら必要なサービスや支援につなげていく。

(支援継続中)

#### ケース2 「外国にルーツのある母親を持つ中学生の高校受験の支援」

(支援経過)

中学生と同じ学年の保護者から、母親が日本の高校受験についての理解がないため学習面や金銭面で相談にのっているが、どのような支援があるか相談を受ける。



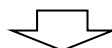
中学生や母親と話したところ、市の窓口で受けた説明を十分に理解していなかったことで 金銭面に不安を持っていたことがわかり、同行して一緒に説明を聞きに行く機会を持った。また、支援を受けている学習支援団体と母親とのコミュニケーションが上手く取れていなかったため、情報共有する場を調整して同席した。子どもの学習支援や受験指導については学習支援団体が最後まで寄り添い、無事合格することができた。今後も世帯の状況を確認しながら必要に応じて支援をしていく。

(支援継続中)

#### ケース3 「障がいのサービスにつながないうつ病の女性の支援」

(支援経過)

両親が亡くなり一人で生きていくことに不安を感じている精神障がいの女性が知人に相談したところ、心配した知人から社会福祉協議会に相談があり、地域福祉コーディネーターが支援を開始した。



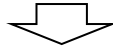
知人に協力を得て一緒に本人の話を聴き、本人の状況を確認しながらどのような支援が必要か検討。金銭面の不安から就労の希望が強くあるが、精神科の治療が必要な状態であることがわかり、受診に同行したり市役所の自立支援医療費制度や精神障害者保健福祉手帳の申請手続きに同行し、本人と関わりがある関係機関と連携しながら支援体制を整えている。

(支援継続中)

#### ケース4 「一人暮らしのひきこもりの男性への支援」

##### (支援経過)

二人で暮らしていた母親が施設に入所し息子一人が戸建てに住んでいるが、近隣との関わりがない状態。漏水が発生し母親の後見人から地域包括支援センターに相談があり、地域福祉コーディネーターにつながる。



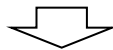
何度か自宅を訪問し息子とコンタクトを取ろうとするが全く応答がない。漏水は確認でき、近隣の方からも心配の声を聞く。後見人と連絡を取り建物外側の漏水は修理できたが、家の中からも水流の音が聞こえ漏水している様子。地域包括支援センターと連携しながら、手紙をポスティングするなどして本人に会えるよう働きかけを行っている。

(支援継続中)

#### ケース5 「子ども食堂の学校開催の支援」

##### (支援経過)

新型コロナウイルスの影響で対面の開催を中止していたが、9月から地区公会堂で再開。今後の開催について、小学校の教室での開催が議題にあがる。



教育委員会に学校を利用する際に必要な手続き等を確認し地域福祉コーディネーターが対応。子ども食堂と小学校、教育委員会と打ち合わせを重ね、12月から小学校の教室での開催が開始となる。

(支援継続中)

#### ケース6 「ひきこもり支援の取り組み」

##### ・ひきこもり家族会『みたか親の会』

ひきこもり支援の一環として、ひきこもり家族会の立ち上げを行い『みたか親の会』が発足し、令和4年度は自主グループとして活動できるよう活動の継続支援を行った。毎月1回みたかボランティアセンターで開催し、多い時には15名程の家族が参加した。また、『みたか親の会』による相談会を令和5年2月から西多世代交流センターで毎月1回開始した。

##### ・『三鷹ひきこもり支援者連絡会』と『三鷹ひきこもり合同相談会』

市内でひきこもり支援を行っている関係機関・団体が集まり、お互いの取り組みを理解しひきこもり支援について共に考えながら日頃の支援をスムーズに行えるよう『三鷹ひきこもり支援者連絡会』を定期的で開催した。また、9月には連絡会の参加団体で『三鷹ひきこもり合同相談会』を開催した。

##### ・ひきこもり当事者の居場所づくり

ひきこもり当事者が安心して参加できる居場所をつくるため、3月に「ぬり絵の時間」を開催し、当事者4名が参加した。今後は、参加者と相談しながら定期的に関催する居場所づくりを行っていく。

## 4 会議体等への参加

地域住民がボランティアとして見守り活動や支え合い活動を行っているほのぼのネットの定例会に参加してほのぼのネット員へ地域福祉コーディネーターの役割を説明し、支援が必要な方がいる場合は地域福祉コーディネーターにつなげてもらうよう協力を依頼するとともに、地域の情報収集や課題把握に努めた。実際に支援が必要な方がいた場合は、ほのぼのネット員に見守りや声かけ、ちょっとしたお手伝いを依頼するなど“身近にいるご近所さん”として要支援者を支える役割を担ってもらった。

また、コミュニティ住区を基盤エリアとして地域住民や関係団体が地域課題の解決や支え合いを目指して活動している「地域ケアネットワーク」や学校と地域住民が連携し学校を核としたコミュニティづくりに取り組んでいる「コミュニティ・スクール委員会」に参加し、地域住民と共に地域づくりに取り組んだ。

令和4年度はひきこもりに関する相談も多くあり、市内外でひきこもり支援をしている関係機関・団体と情報交換を行う「三鷹ひきこもり支援者連絡会」に参加し、各機関・団体と顔の見える関係づくりに取り組むとともに、支援機関・団体と合同で「三鷹ひきこもり相談会」を開催した。

### 【全市】

- ・地域福祉コーディネーターをコアとする多機関協働事業会議
- ・生活支援コーディネーター実務担当者会議（オブザーバー参加）
- ・三鷹市認知症地域支援ネットワーク会議
- ・高齢者電話訪問事業月例会
- ・みたか子育て支援団体コミュニティ
- ・三鷹市子ども食堂・子どもの居場所情報交換会
- ・子どもの学習と支援検討会議
- ・ホームスタート・みたか運営委員会
- ・三鷹ひきこもり支援者連絡会
- ・みたか親の会
- ・三鷹市障がい者地域自立支援協議会事例検討会
- ・三鷹市社会福祉法人地域公益活動ネットワーク準備会
- ・北多摩南部ブロック社協地域福祉コーディネーター担当者会議

### 【大沢地区】

- ・ほのぼのネット定例会（大沢わかば班、のがわ班、大沢班）
- ・地域ケアネットワーク・大沢
- ・おおさわ学園コミュニティ・スクール委員会
- ・大沢地区高齢者地域支援連絡会（大沢地域包括支援センター主催）
- ・のがわの家運営委員会
- ・シルバー人材センター大沢地区役員会
- ・学童保育所地域連絡会（大沢台小学童保育所、羽沢小学童保育所）

#### 【連雀地区】

- ほのぼのネット定例会（上連6・7班、なでしこ班、下連ひまわり班、山中班）
- 連雀・地域ケアネットワーク
- 三鷹中央学園コミュニティ・スクール委員会
- 連雀地区高齢者地域支援連絡会（連雀地域包括支援センター主催）
- 学童保育所地域連絡会（七小学童保育所）

## 5 大沢地区 地域福祉コーディネーターによる相談サロン

大沢地区は市役所から遠い地域のため、市民の自宅に近い身近な場所で相談できるよう、地区公会堂や都営・市営住宅の集会所を会場に毎月1回相談サロンを開催し、年間12回の相談サロンで14件の新規相談があった。相談内容としては加齢に伴う今後の生活の不安や介護保険の利用の相談等が多かった。

相談サロンの開催にあたっては、ほのぼのネット員にチラシの配布をお願いしたり、町会・自治会の回覧板や掲示板での周知のほか、住民協議会が発行しているコミュニティ紙に毎月開催のお知らせを掲載した。

なお、相談サロンは大沢地域包括支援センターの協力を得て、地域包括支援センターの職員に同席してもらい、一緒に相談に対応した。

## 6 研修体制

地域福祉コーディネーターとして支援のスキルを向上させるため、ルーテル学院大学大学院附属包括的臨床コンサルテーション・センターの福山センター長、照井事務局長によるコンサルテーション研修を年4回実施し、「協働体制の構築」をテーマに多機関・団体との連携のあり方や社会福祉協議会の中での連携のあり方について学ぶとともに、スーパービジョンのスキルの向上に取り組んだ。

また、東京都社会福祉協議会が主催する重層的支援体制整備事業情報交換会等に参加し、都内市区町村の重層的支援体制整備事業取り組み状況や地域福祉コーディネーターの活動状況について情報収集を行い、三鷹市の取り組みの参考とした。



## 7 広報

地域福祉コーディネーターを広く市民へ周知するためチラシを作成し、コミュニティ・センターや市政窓口などの行政機関の窓口に配架してもらうとともに、日頃から地域の見守り活動等を行っているほのぼのネット員や民生・児童委員、町会・自治会、市民が参加している自主グループ等、様々な機会に配布した。

社会福祉協議会が年4回全戸配布している「みたか社協だより」では全号で地域福祉コーディネーターの記事を掲載し啓発を行った。全戸配布ということで、配布直後には社協だよりを見た方からの相談が多く寄せられた。その他、三鷹市のHPや社会福祉協議会のホームページ・Facebookにも地域福祉コーディネーターの記事を掲載した。

大沢地区では「地域福祉コーディネーター相談サロン」の開催について、大沢住民協議会が発行している「コミュニティおおさわ」に開催のお知らせを掲載した。

地域福祉コーディネーターのチラシ

Facebook (大沢地区相談サロンのお知らせ)

みたか社協だより (令和4年 10月31日発行)

コミュニティおおさわ (1月号)



## 8 まとめ

令和4年度は前年度に引き続き大沢地区と連雀地区の2地区に各1名の地域福祉コーディネーターを配置して事業を実施し、新規相談は大沢地区で101件、連雀地区で85件と合計で186件あり、前年度と比較すると大沢地区では94件から7件増加、連雀地区では75件から10件増加し、合計で169件から17件増加した。相談があったケースの対応回数を見ると大沢地区では前年度の956回から774回と減少したものの、連雀地区では前年度の868回から1,229回に大幅に増加し、合計でも前年度の1,824回から2,003回に増加した。障がいやひきこもり、経済的困窮、就労など課題が複雑化・複合化したケースや本人に寄り添いながら継続して関わりが必要なケースが複数あり、今後も同様のケースが増えてくることが考えられるが、課題が複雑になる前に相談につながるよう地域で見守り活動をしているもののネット員や民生・児童委員など地域で見守り活動をしている方々に協力してもらい、課題を抱えている方を早期に発見し地域福祉コーディネーターにつなげてもらうよう引き続き事業の啓発を行っていく。また、大沢地区で実施している相談サロンは一定の利用があり、令和5年度は地域の拠点となっているコミュニティ・センターを活用し、地域福祉コーディネーターを配置している地区で相談会を実施していく。あわせて、地域福祉コーディネーターに気軽に相談できるよう、相談方法としてLineの活用を検討していく。

支援対象者の内訳では、「障がい者」が前年度と比較すると250件から467件に増加しており、その中でも精神障がいの方の相談が多かった。課題の解決には時間がかかるケースが多く、時には病院の受診に同行するなど本人に寄り添いながら伴走支援を行っている。

地域福祉コーディネーターを配置している2地区以外の地区から相談が寄せられることもあり、地域福祉コーディネーターへの期待は大きい。令和5年4月には新たに東部地区に1名の地域福祉コーディネーターを配置し3名体制で事業を実施するが、早期に全市的な配置を整え、それぞれの地区で相談を受けられる体制が望まれる。地域福祉コーディネーターは対象年齢や相談分野を問わず対応し個別支援を行うため、高齢、障がい、子育て、生活困窮など様々な分野の制度やサービスを熟知するとともに、課題解決のために地域の社会資源を把握し、関係機関や団体と連携できるようネットワークの構築が必要となる。また、障がいや疾病、家庭環境など様々な状況にある相談者の考えや気持ちを理解・受容し、その方の状態を的確にアセスメントし課題を分析して解決方法を考えていくスキルも求められる。更に、個人が抱える課題を地域の課題として捉え、地域住民と一緒に課題解決に向けた取り組みを行うためには、日頃から地域で活動する様々な団体や住民とコミュニケーションを図り信頼関係を築く必要がある。これら全てを実行する地域福祉コーディネーターの育成は一朝一夕にはできるものではないが、既に7地区に配置している社会福祉協議会の地区担当職員と連携し、地域福祉コーディネーターをバックアップする体制を整えながら全市的な配置に取り組んでいく。

【発行】令和5年4月

社会福祉法人 三鷹市社会福祉協議会 地域福祉推進係

三鷹市上連雀 8-3-10 三鷹市上連雀分庁舎 1 階

TEL : 0422-76-1271 FAX : 0422-76-1273